

平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立池田高等学校

学校番号 20

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「向学・友愛・錬磨」の下、明るく規律ある学校生活を通して、「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな、心身ともに健全な人間形成を期すとともに、現代社会に貢献できる人間の育成に努める。	
2 評価する領域・分野	◇研修	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	保護者対象のアンケートでは、授業公開、保護者との連携、教育相談体制、少人数指導等個に応じた指導など、学校教育活動全般に対する肯定的な評価は80%弱で推移しており、おおむね肯定的に評価されている。しかし、「授業を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている」の肯定的評価が70.8%に留まることや、生徒の授業満足度の教科間のバラツキなど、未だ改善の余地がある。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇「アクティブ・ラーニング」の導入による授業改善と指導力の向上。いじめや不登校、発達障害等に関する生徒理解及び対応能力の向上。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> • 企画委員会、生徒指導委員会、人権教育委員会 • 分掌会、教科会、学年会 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 授業公開の積極的な実施と指導主事の招へい、教員による相互評価、管理職による授業参観と指導・助言、自己啓発面談。 (2) いじめの早期発見・早期対応、生徒理解と発達段階に応じた指導の在り方を学ぶ。	(1) 生徒及び保護者アンケート、教員の相互評価、生徒対象の授業アンケート（満足度調査）結果 (2) 生徒対象生活アンケート（迷惑調査）、M2-D V（生徒自己理解調査）結果、保護者対象メールアンケート	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> • 年2回の授業公開週間を設定、外部評価を受けるとともに職員相互の授業評価を実施。 • 管理職による授業参観、自己啓発面談、指導主事を招き「アクティブ・ラーニング」の全体研修と授業研究（英語科）を実施。 • 生徒に関する教員間の情報共有を図るとともに、発達障害等、新たな課題への研修を実施。 	①教科の枠を越えた授業参観及び相互評価を通して、授業力が向上できたか。 ②いじめ・不登校等に対する理解を深め、適切に対応する方法を学び実践できたか。	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
11 成果・課題	(成果) ○県教育委員会指導主事を招いた職員研修で「アクティブ・ラーニング」の基礎基本を学ぶとともに、個別教科で授業研究を行うことができた。 ○各種調査からいじめ等の予兆を早期に発見し、早い段階で対処することができた。 (課題) ▲「アクティブ・ラーニング」は全ての教科で研究する必要がある、情報機器等の活用等、授業展開のさらなる工夫が必要。	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> • ESD推進と「アクティブ・ラーニング」の実践のため、先進事例の視察や外部人材を有効活用し、様々な教育手法を学ぶ機会を設ける。英語以外の教科でも指導主事を招いた研究授業を企画していく。 • いじめ等の把握の有効な方策の研究、職員間の情報共有の仕組み、問題発生時の速やかな対応の研究。 	
	総合評価 A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成28年2月12日

【意見・要望・評価等】

- 授業に興味向けば、いじめも不登校も減少していくと思われま。
- 外部との交流を密にし、グローバルに物事を考えるように指導をお願いしたい。
- 「アクティブラーニング」への理解を職員内でも深めていき、授業が自由な発想で作上げられていくことを願っています。
- わかりやすい授業のための取り組みやアクティブラーニングは、その成果が待たれていると考えています。